

文化財を訪ねて

—見てある記—

市指定無形民俗文化財 小針領家のささら獅子舞



▲小針領家のささら獅子舞



▲棒術の演舞

洪うちわで指揮します。獅子は法眼（大獅子）、中獅子の二頭の雄獅子と雌獅子で、法眼は金色の溝のある剣角、中獅子は赤色の溝のある剣角二本があり、雌獅子には角がありません。

小針領家のささら獅子舞は、九月中旬の秋祭礼および四月中旬の春祭礼に小針領家の水川諏訪神社で演じられます。正式には「獅子舞神楽」と呼ばれ、社前の土俵上で棒術（二人使い、四人使い）や獅子舞を行います。土俵は陰陽五行説に基づいて四本柱を立てた神聖な場所で、棒術は武具による悪霊追放、獅子舞は獅子という霊獣による悪霊追放の芸能です。悪霊を追放して五穀豊穡、天下泰平を祈るのです。

三頭の獅子を率領の天狗が率います。天狗は赤い鼻高の天狗面をかぶり、大きな

ササラツコが被る花笠には、金桜・銀桜・金牡丹・銀牡丹の四種があり、表側（拝殿に向かう側）の右に金桜、左に銀牡丹、裏側の右に銀桜、左に金牡丹が立ちます。「中獅子の出端」で中獅子が舞い出、雌獅子は立ち上り金桜の辺で笛に合わせて腰の太鼓を打ちます。次いで「法眼の出端」でホラ見という動作が加わります。「すりかえし」で三頭が三角になって舞います。

掛り物は、「笹」と「梵天」の二種があり、依代（掛る物）が変わるだけで所作は同じです。「笹掛」は法眼の一人舞で、中

獅子と雌獅子は二つの桜花の間で太鼓を打ちます。「笹見」は、金桜・銀牡丹・金牡丹・銀桜・金桜の順序に五箇所で見ます。金桜の前では、初めと終りと二回繰返すこととなります。見方にイミ（居見）とタチミ（立見）とがあり、この二つの動作を各花の前で中央に立てた笹（幣束）に向かって行い、順次移って行きます。ほかの演目に「雌獅子隠し」があります。

小針領家のささら獅子舞で特筆すべきは、昭和三十四年を最後に途絶していたものが、後継者に小・中学生を取り込んで、保存会長や地区の皆さんの熱意で見事に復活したことです。最近では全国の子供民俗芸能大会などに出演し、たびたび表彰されています。小・中学生のはつらつとした舞や笛をぜひご堪能ください。



▲日本キワニス文化賞を受賞